

## 大学院生プロジェクト型共同研究・研究成果報告

報告者：金井 里弥（教育設計評価研究コース）

<b>■ 研究題目</b>
シンガポール中等教育段階における宗教理解学習の実態 —「宗教理解」の解釈に着目して—
<b>■ 研究グループ氏名</b>
金井 里弥（教育設計評価研究コース）（代表者） 金井 徹（教育政策科学研究コース） 柴田 聡史（教育政策科学研究コース） 高橋 雄（教育設計評価研究コース） 張 燕（教育設計評価研究コース） 橋浦 由佳（教育設計評価研究コース）
<b>■ 研究実施過程</b>
7月 4日：研究会…研究目的、分析の視点、研究方法および手順の確認 7月 18日：研究会…関連文献・資料の検討とリストアップ 8月 1日：研究会…関連文献・資料の吟味、先行研究の分析 8月 8日：研究会…関連文献・資料の吟味、先行研究の分析 8月 29日：研究会…訪問校の選定 9月 12日：研究会…訪問校に関する情報の整理と質問項目の吟味 9月 26日：研究会…質問項目の吟味 10月 10日：研究会…現地で収集する資料の吟味 10月 12日：研究会…現地で収集する資料の吟味と質問項目の最終確認 10月 14日～11月 4日：現地調査 11月 14日：研究会…現地で得られた情報の整理 11月 28日：研究会…現地で得られた情報の整理 12月 5日：研究会…現地で得られた政策関連情報の分析 12月 19日：研究会…現地で得られた道徳教育関連資料の整理 1月 9日：研究会…現地で得られた道徳教育関連資料の分析 1月 23日：研究会…現地調査でのインタビューの内容の整理 2月 6日：研究会…現地調査でのインタビューの内容の分析 2月 20日：研究会…成果報告会の発表内容の検討 2月 27日：研究会…成果報告会の発表内容の吟味 3月 5日：研究会…成果報告会の発表内容の最終確認 3月 6日：研究成果報告会

**■ 研究成果概要（目的、実施内容、成果、新たな課題など）**

本研究の目的は、シンガポールの中高等教育段階における宗教理解学習の実態を「宗教理解」の解釈に着目して明らかにすることにある。この目的を達成するために、当研究グループは、月に2～3回の研究会を活動の主軸としながら、関連文献・資料、先行研究の整理と分析、シンガポールにおける現地調査の実施、現地調査で得られた情報の整理と分析を行ってきた。

シンガポールにおける現地調査では、国立図書館（National Library）および教員養成機関である国立教育研究所（National Institute of Education, NIE）における政策文書や道徳科目「市民・道徳教育」（Civics and Moral Education）の教科書を中心とする道徳教育関連の教材の資料収集、NIEの教員養成課程において宗教理解に関連する科目を担当する教員ならびに同科目を履修している学生へのインタビュー、そして、中等学校2校における校長および道徳教育関連科目を担当する教員へのインタビューを実施した。現地調査で得られた資料は政策関連と道徳教育関連に区分し、グループ内で分担してそれぞれの分析にあたった。また、現地でのインタビュー調査は、宗教というセンシティブなトピックを扱うことを踏まえて、音声録音を控える形で実施することを条件にご協力頂いた。そのため、インタビュー中に記録したメモをグループのメンバー全員で整理し、その分析にあたった。

これらの作業を通して、①政府の意図する「宗教理解」の意味、②教員養成課程における「宗教理解」の意味と学生の解釈、③中等学校における教員の「宗教理解」の解釈を検証した。その結果、政府の意図する「宗教理解」の意味と、教員養成課程ならびに学校現場におけるそれとの間にギャップが生じていること、更には、学校現場において、宗教理解学習が消極的な取組みに留められており、そのことが宗教理解学習の形骸化を招いていることが明らかとなった。そしてまた、インタビューの教員たちの語りの中から、学校現場の中で醸成された独自の宗教理解学習の論理が存在していたことが分かった。

本研究では、「宗教理解」というデリケートな問題を扱うことから、より多くの学校からの調査協力を得ることが叶わなかった。そのため、調査対象は極めて小規模であり、シンガポールにおける中等学校の代表性を保証し得るものではないことを断っておく必要がある。ただし、シンガポールの学校教育において、宗教理解学習の充実があえて避けられているという現象が生じている事実があることも見過ごしてはならない。欧米を中心に見られるテロ事件や移民問題を背景として、一層宗教間対話や相互理解の必要性が高まっているが、一方で、それらをいかにして促すのかという実践レベルでの議論は未だ発展の途上にある。とりわけ、教育内容の世俗性を前提とする公教育における望ましい「宗教理解」の在り方を模索する上で、シンガポールの宗教理解学習の実態に関する更なる検証が課題となる。